

令和6年度小松市立粟津小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	<p>児童が「みんなで」活動する学校づくりを推進する。</p> <p>・児童へのアンケート結果を元に担任と児童で話し合い、各学年で年間の重点目標を決定する。</p> <p>・7月、12月の意識調査をもとに取組を改善し、成果を共有してより効果的・効率的な取組とする。</p> <p>・南部中学校校下で連携し、児童の視点で魅力的な学校づくりに向けて取組を考え、共に実践していく。</p>	<p>○7月の「あわづっこ あんしん アンケート」の結果では、「学校が楽しい」で「あてはまる/どちらかといえばあてはまる」を選んだ児童が91%、「みんなで何かをするのが楽しい」で「あてはまる/どちらかといえばあてはまる」を選んだ児童が95%だった。今年度も昨年度同様、児童集会で6年生と運営委員会を主体とした「お楽しみゲーム」を取り入れたことで、「楽しい学校・みんなで活動する学校づくり」につながっていると感じた。</p> <p>△昨年度に比べると、「学校が楽しい」と感じている児童が減ってきているので、より有効的な取組や担任と児童との話し合いを進めていきたい。</p> <p>△南部中学校校下での連携に関して、今年度は「なんぶつ子3か条」のうち、「自ら進んで」を重点に進めていく。共通実践内容が決まり次第、取組を開始する。</p>	<p>○12月の「あわづっこ あんしん アンケート」の結果では、「学校が楽しい」で「あてはまる/どちらかといえばあてはまる」を選んだ児童が91.8%、「みんなで何かをするのが楽しい」で「あてはまる/どちらかといえばあてはまる」を選んだ児童が98%だった。2学期は、運動会やあわづっこまつりなど、全校みんなで協力して取り組む行事も多く、その結果が「みんなで何かをするのが楽しい」につながっていると感じた。また、「学校が楽しい」という項目でも、教員の児童が「楽しい」に増えており、「みんなで」活動する行事や各委員会の企画などが、ここにつながっていると思った。</p> <p>△南部中学校校下での連携に関して、今年度は「なんぶつ子3か条」のうち、「自ら進んで」を重点に進めてきた。授業の中で児童が自ら進んで行う取組を共通理解し、各学年で行ったり、各委員会の企画を児童が自ら進めたりしているが、さらに、企画等だけでなく普段の生活から自ら進んで行動できる児童を育む必要がある。</p>
特別支援教育	<p>児童一人一人の教育的ニーズに応じた教育を推進する。</p> <p>・気づき票を通し、特別な配慮を要する児童の課題を把握し、適切な支援を行う。</p> <p>・組織的な特別支援教育を推進するため、コーディネーターを中心に現状を把握、評価した上で、児童の支援策を共有し、継続した支援が行えるよう児童理解の会や支援会議を通して校内支援体制の充実を図る。</p>	<p>○児童理解の会を通して、全職員で児童の実態や変化について共有することができた。必要に応じて校内支援会議を開催した。校内職員だけでなく特別支援学校からの専門相談員や市教育センターの相談員を招聘した会を5回実施した。専門の先生に授業を参観してもらったり保護者との懇談を行ったりすることで様々な視点から支援の方向性を探ることができ、家庭の理解・協力を得ることができた。</p> <p>△気づき票を通しての児童の課題把握が進んでいない。夏季休業中に気づき票を整理して2学期以降しっかりと進めていく。</p>	<p>○校内での支援に関する話し合いを定期的に行ったり級外の先生が個別の指導を受け持ったりすることで、子ども1人1人に応じた学びの環境を整えることができた。</p> <p>○保護者との懇談を行い、保護者の思いを汲みつつ、納得してもらいながらその子に合った支援を考えることができ、協力を得ることができた。</p> <p>△個別に支援を必要とする児童など学校生活全体の中での支援の仕方を探っていく必要がある。</p>
道徳教育	<p>日常生活で生きて働く道徳科の授業づくりを推進する。</p> <p>・深い学びにつながる授業展開を目指し教材研究の場もつ。</p> <p>・振り返りの道徳ノートを活用し、自身の変容を実感できるように関わる。</p> <p>・行事と道徳の学びのつながりの意識を意図的にもち、児童が学びを実感できる評価をする。</p>	<p>○低学年・中学年・高学年に分かれる教材研究の場を設けた。共通の教材等もあり、1学期の授業準備に生かすことができた。</p> <p>○全学年で振り返りの道徳ノートを活用している。教師が価値観を押し付けるのではなく、児童の振り返りに寄り添うコメントを継続していきたい。</p> <p>△1学期は行事と道徳の学びのつながりの意識付けが弱かった。2学期から担当が働きかけ、道徳の授業と実生活、行事を結びつける言葉かけを積極的に行う。</p>	<p>○全学年的に、道徳の授業だけではなく、各行事や学年の実態に応じて日々の生活の中で道徳教育が施されていた。例えば、全校集会では、各学年ごとに学期の目標や振り返りの中で「時間を守る大切さ」や「友達との関係を深めるためにできること」など学校生活全体に関する内容が挙げられていた。</p> <p>○今後も引き続き、道徳ノートを活用し、教材から離れ、自分自身と向き合うことができる振り返りを実施していきたい。</p> <p>○道徳の授業の中で、ゲストティーチャーを活用する授業を低学年・高学年各1回、3学期に実施することができた。</p>
保健教育	<p>健康な生活づくりを推進する。</p> <p>・保健指導を計画的に実施することで、児童が自分の心や体について理解できるようにする。</p> <p>・各学期に1度の「にこにこ生活プロジェクト」の実施を通して、メディアとの関わり方（自分を大事にするメディアコントロール）を考え、よりよい生活習慣を心がけられるようにする。</p>	<p>○4月健康診断時に「正しい健康診断の受け方と体の雑学」、6月体重測定時に「動物の歯と人間の歯」についてのミニ保健指導を実施。6～7月に各学級にて歯と口の健康指導を実施した。歯と口の健康指導のふりかえりでは、「歯について知らないことが知れた。もっと大事にしようと思った。」という声が多く聞かれた。2学期は、9月と11月にミニ保健指導とむし歯の多い児童、歯肉炎の児童に個人指導を実施する予定である。</p> <p>○第1回にこにこ生活プロジェクトでは、達成率が85.7%となり、多くの児童がメディアコントロールを心がけ、よりよい生活をしようとする姿が見られた。</p> <p>△にこにこ生活プロジェクトの提出率は85.4%（最も低い学年は69.6%）だった。今回、提出できなかった児童には第2回以降、個別に声掛けをしていきたい。</p>	<p>○9月にミニ保健指導について児童にアンケートを実施したところ、「よくわかった、だいたいわかった」と答えた児童が低学年では94%、高学年では96%。また「保健指導を聞きたいか」という質問には低学年で94%、高学年では89%の児童が聞きたいと答えた。児童は体や心、健康について知りたいと思っていることがわかった。今後は1月の身体計測時に保健指導を実施し、その後アンケートを予定している。</p> <p>△歯みがきの個別指導は2学期に実施できなかったため、3学期の実施時に確認する。</p> <p>○第2回にこにこ生活プロジェクトは達成率が87.7%と第1回を上回る結果となった。今回は最も難しいコースを選択する児童は減ったが、自分の決めたコースを達成しようとする児童が多かった。</p> <p>△提出率は78.3%と第1回を下回ってしまった。第3回では、プロジェクト開始前に担任から取組の大切さを話してもらおう予定としている。</p>

学校関係者評価	<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童集会では、6年生が中心となって下級生を楽しませる企画を行い、司会進行や運営など主体的に頑張っている姿がとてよい。グループに入りにくい児童への対応もできていた。 ・道徳の授業では、地域の人材などゲストティーチャーとして招き、児童に本物の体験をさせてほしい。 ・道徳教育等の充実を図り、児童の自己肯定感を高め、メンタルを強くしてほしい。 ・よりよい生活習慣の育成として「生活チェックシート」に「朝ごはん」を追加するとよい。 <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参加では、どのクラスも落ち着いて学習していた。特に6年生の道徳の授業では「手品師」の価値項目についてディベートをする姿に感心した。少数派でも自分の意見を堂々と伝える姿に感動した。個を大切にしている教育を行っている。 ・朝ごはんを食べない児童が心配なので、関わりを継続してほしい。 ・高学年はスマホ等を持つ割合が高いので、いじめ等に関わる可能性が高くなる。使い方や使われ方など保護者と連携しながら情報交換し児童を見守ってほしい。 ・SNS等の情報で〇か×を簡単に決めるのではなく、それぞれの考えや立場を考慮して、自分で調べて、よりよく判断し行動できる子どもに育ててほしい。情報に振り回されなくてほしい。 ・嫌なことをされたら「嫌だ」といえる子にしてほしい。保健の授業でプライベートゾーン等について取り上げ低学年から性教育を行い、性被害に対する意識を高めてほしい。 ・外部人材を活用しての学習や復活された取組があってよい。人の話を聞くことで社会に対してよりよい理解や人間形成が図れるので今後も取り組むとよい。
---------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------